



# さくら 2006 秋

発行  
社会福祉法人 東桜会  
第 13 号  
〒420-0962  
静岡市葵区東 527 番地の 1  
特別養護老人ホーム 麻機園  
TEL 054(247)8739  
FAX 054(247)8640

## 100 歳をお祝いする会

平成 18 年 7 月 31 日に麻機園に入所者されている内山 きぬ糸様が 100 歳を迎えられました。

特注のバースデイケーキに『100』の数字をかたどったロウソクを灯し、職員から 100 羽の折り鶴をお渡ししてお祝いをしました。

当日はご家族もおみえになり、きぬ糸さんの若い頃の話をお伺いしました。きぬ糸さんは助産婦をされていて、仕事が多忙な忙しい時でも、朝早く起きて家族のために栄養バランスのとれた食事を作っていたそうです。その食事が御自身の長生きの秘訣とのことでした。また、ご結婚以来ご主人が退職されるまで、毎日お弁当を作られていたと伺い、気丈なきぬ糸さんの姿が目にかげびました。100 歳を迎えられて益々お元気なきぬ糸さん、これからは素敵な笑顔を見せて下さい。

また、9 月 25 日には静岡市から“100 歳お祝い訪問”があり、記念品として肖像画等が贈られました。

麻機園 寮母 木村 文記



## 実習生・研修生を受け入れています

麻機園 園長 秋山 通

麻機園では 1 年を通じて実習生や研修生を受け入れています。今年も既に福祉系学校の介護施設実習生やホームヘルパーの養成研修生を受け入れています。

様々な実習の中に平成 2 年度から続いている「静岡県新規採用職員研修」があります。1 回に 6 ~ 7 人、年 3 回程の受け入れです。今年も 6 月と 7 月に合わせて 18 名の県の新職員が研修に来園しました。この研修ではもう既に三百名余りの県職員を受け入れたこととなります。全県職員四万余名の 1 %にも満たない人数ですが、それでも私共のような施設で随分大勢を受け入れたものだと驚きます。研修日には研修開始前と終了後に研修生とお話をする時間を設け、研修目標や研修後の感想、意見等を伺ってきました。それらの反省会で分かったことは、殆どの新採職員は初めて特養に来所すること、特養に付帯して各種の在宅サービスを実施していることを知らないこと、デイサービスの利用者は生き生きとして大変明るいと感じている反面特養入所者との会話は難しいと感じたこと等でした。最近の世相を反映し、祖父母と同居した経験のない若者が多く、日常生活では「介護」とは無縁の世界で生活してきた人達ばかりとの印象を受けますが、それでもわずかな時間の麻機園での研修体験を、静岡県の職員として、これからの仕事に役立てていただければ幸いです。いつかは私達の分野の担当者になることも考えられます、その節はどうぞよろしくお願いいたします。

誰もが住みやすい静岡県のためにこれからのご活躍を期待しています。



# 「ありがとう」 麻機園 寮母 佐々木陽子

私達職員は普段入所者の方々のお手伝いをさせて頂くなかで、こう声を掛けて頂ける事が大変多く、そのお陰で忙しくても笑顔を絶やさず仕事ができるのだと思っています。

9月16日に敬老会が行なわれましたが、入所者の皆さんはよそ行きの服を着たり、お化粧をしたりして気持ちも若返り、生き生きとした表情で参加されていました。第一部は、来賓がおみえになったこともあり、普段はあまり見られない真剣な表情でした。第二部では、毎年恒例の新人職員による出し物が行なわれました。今年は『昭和歌謡大全集』ということで、歌に合わせて踊るというミュージカル風な内容でした。入所者の皆さんは懐かしいのか、笑顔でご覧になっていました。手拍子で曲を口ずさむ姿も見られ大成功だったと思います。新人職員も、夜遅くまで一生懸命練習したかいがあったのではないのでしょうか。輪踊り『東京音頭』では、職員の輪に加わって一緒に踊ってくださる方や、席についたまま一生懸命手を動かして踊ってくださる方がいて、充実した会になりました。第三部昼食会では、赤飯に天ぷらと、入所者の皆さんの好物がテーブルに並び、中にはビールを召し上がる方もいて、大変満足そうでした。

『私達は、毎日が敬老の日です』園長の挨拶の中の言葉です。戦争という物が無い時代を生き抜いてきた入所者の皆さんだからこそ、常に感謝の気持ちをもって私達にも接して下さっているんだと思います。私は入所者の皆さんと接している中で、不平不満ばかり言って嘆くのではなく、常に感謝の気持ちを忘れないで、笑顔で毎日を過ごすということを学びました。逆に元気をもらうこともたくさんあります。『ありがとう』と言われたら、これからはこう返事をしたいと思います。「こちらこそありがとうございます」と。

## H18.9.16 敬老会プログラム

### 《第一部》

敬老会式典 10:20 ~

1. 開式のことば
2. 理事長挨拶
3. 市長挨拶
4. 記念品贈呈
5. 来賓祝辞
6. 来賓紹介
7. 祝電披露
8. 敬老招待者代表者謝辞
9. 永年在職施設長感謝状  
・永年在職職員表彰
9. 閉式のことば

### 《第二部》

アトラクション 11:15 ~

1. 新人職員による  
“昭和歌謡大全集”
2. 輪踊り  
職員全員で  
東京音頭の踊り

### 《第三部》

昼食会  
『敬老の日 祝膳』12:15 ~

#### ＜おしながき＞

- お赤飯 吸い物
- 天ぷら
- 大根おろし・抹茶塩
- 煮物 すきみ
- 浅漬け みかん



### 心の会話

麻機園 寮母 片井里美

「おはようございます！」と声をかけながら居室を回る。「おはようさん！大変だね」と労う言葉や、「今日は何かあるの？」と予定を聞かれる・・・そんな会話が一日の始まり。一人一人に「元気ですか？大丈夫？」と話しかける。この朝の会話を待っていてくれる人がいる。ゆっくりと話をすることができないが、こころは通い合うものがある。一人一人の顔色、表情を自分の目で見て、また声を聴いて、体調だけでなく普段と違うところはないか？と気に留める。

利用者がよく口にしている言葉がある。「ありがとう」と「ごめんね」。ふと考える。「ありがとう」と言われる時ってどんな時？食事の配膳をした時、頼まれ事をした時、入浴や排泄のお手伝いをした時、また、何か胸の内を打ち明けられた時・・・でもその言葉の裏側にどんな想いがあるのだろうか？申し訳なく思う気持ち、自分で情けなく思う気持ち、「ごめんね」も同じ。時に聴き流してはいけない言葉があると思う。何気ない会話の中にも気にかかると言葉があった時、なんだか落ち着けずにいるような様子の時、なぜだろう？何か理由がある？じゃあそれは何？表現の仕方は様々だが、それらに「気付け事」それが私たちの一番大切な仕事だと思ふ。気持ちを話してくれる方には、その話に耳を傾け丁寧に対処しよう、気持ちを話さずにいる方にこそ自分から歩み寄り、話に耳を傾けよう、そして相手の立場に立つて物事を考えよう、と思ふ。

一人一人と向き合い、心の会話を重ねたい。身体だけでなく、辛さ、悩み、楽しみ、喜びを共感し、心の支えになれる家族の一員のようなつながりを持ちたい。「麻機園で生活して良かった」と思ってもらえる場所になったら嬉しいと思ふ。

この仕事を通じて、長く人生を歩んで来た先輩から学び、成長させてもらっている事に心から感謝します。これから私も、情熱を持って、気持ちの温かくなる仕事ができるよう努力します。